

湯ノ丸山&烏帽子岳山行報告

【山行日】2021年7月11日(日) 晴れ

【集 合】岩舟支所P AM 5:00

【費 用】マイカー2台 : 4,500円

【メンバー】CL:鈴木ユ、 SL大西

青柳、植竹、嶋田、関、廣瀬、福島、藤原、

【コースタイム】岩舟支所P5:00＝地蔵峠 P6:50/7:05

～リフト上ベンチ 7:25～湯ノ丸山 8:30～北峰 8:45

～湯ノ丸山 9:00～鞍部 9:30/9:40～烏帽子岳

10:10/10:30～鞍部 11:15/11:50～キャンプ場

12:10～地蔵峠P12:20/12:35＝道の駅「雷電くる

みの里」13:00/13:20＝岩舟支所P15:05



今日は日光白根山に登る予定だったが、奥日光の天気は雨の予報で行き先変更となった。今日一番天気の良いのは長野県東部なので、湯ノ丸山から烏帽子岳に登る計画に変更した。



それでも寒気の影響で不安定な天気で、午後から雷雨の予報が出ていた。出発時間を早くし、5時に岩舟支所を出発する。予定より早く登山口がある地蔵峠に着き、トイレを済ませストレッチを行ってから出発する。

駐車場から道路を渡り、ゲレンデの中にある登山道を登って行く。いきなり急登にあえぎながらも、シャジクソウの花を見つけて嬉しそうに話す。20分程で登り切り、リフト終点の先のベンチで休憩し衣服調整を行う。

この先の右側にツツジ平入口があるが、レ

ンゲツツジは終わっているのでそのまま登山道を直進する。カラマツ林の中を緩やかに進み、やが

て風見鶏と鐘が付いた金属製の標識が立つ湯ノ丸山の登山口に到着。前方にこれから登る湯ノ丸山が、青空の中に聳えている。登山を始めると展望が開け、岩がゴロゴロした急坂を登るようになる。急坂を登り切ると傾斜が緩くなり、笹の中の道を行くと平らで広い湯ノ丸山山頂に着く。山頂で記念写真を撮ったら2班に分かれ、7名は北峰に向かい2名は先に烏帽子岳に向かう。平坦な稜線を展望を楽しみながら爽快に歩き、15分で三角点がある北峰に着く。大きな岩が重なった山頂は狭いが展望は抜群で、四阿山やこれから登る烏帽子を見晴らすことができる。



眺望を楽しんだら来た道を南峰まで戻り、烏帽子岳との鞍部に向かって下って行く。石がゴロゴロした急斜面を下り、ストックを頼りに慎重に下って行く。少し下ると樹林帯の道になるが、こちらも滑り



やすくゆっくり下る。傾斜が緩くなると鞍部に着き、石のイスに腰掛けておやつタイム。鞍部で地蔵峠からの道と合流するが、烏帽子岳へはそのまま直進する。やがて道は大きく左に巻きながらジグザグと登り、高度を上げて行く。このあたりから花が多く見られ、ゲンナイツウロやベニバナイチヤクソウ等が疲れた体を癒してくれる。尾根筋に出ると再び視界が開け、爽やかな風が暑さを吹き飛ばしてくれた。先行した2人がすぐ先に見え、声を掛けて合流し一緒に登って行く。ここから

烏帽子岳山頂までは快適な尾根歩きで、展望やお花を楽しみながら登って行く。ハクサンチドリやテガタチドリ、コマクサの花を見つけて喜んでいた。小さな岩峰の小烏帽子岳を越え、岩稜の急登を登り切ると烏帽子岳山頂に着く。山頂は広くは無いが展望は抜群で、360度の大パノラマが得られる。北アルプスや南アルプスの遠望は得られないが、八ヶ岳や四阿山、浅間山、上田市街等の展望が素晴らしい。記念写真を撮り、ご褒美のプリンを食べたら下山する。当初は山頂でランチタイムの予定だったが、昼過ぎから雷雨の予報なので鞍部まで下ることにした。

往路を戻って鞍部まで下り、石のイスに腰掛けてランチタイムとした。お湯を沸かしてカップ麺やスープを作り、おにぎりやパンを美味しくいただいた。ここからは樹林帯の道を緩やかに下り、途中のキャンプ場でトイレに寄って駐車場に戻った。靴を履き替えたなら車に乗り、道の駅「雷電くるみの里」でお買い物。



買い物していると雨が降り出し、やがて土砂降りの雨になり「早く下山してラッキー！」と胸をなでおろした。土砂降りの雨の中車に乗り込み、岩舟支所へと向かった。

途中雨が止んだかと思うとまた激しく降り、雨に追われるように岩舟支所に着いたが、幸い雨が止んでいた。ところが皆さん家に帰る途中に激しい風雨に遭い、大変な状況の中帰宅したようだ。

我輩も家の駐車場に着いたが、今までに経験したことが無いような風雨と大粒の雹が降り車から下りることが出来なかった。後日、皆さんに聞くと、無事帰宅できたようなので安堵した。